

徳島県神山町における 「地域特性を活かした教育」と若年層の流入

—人口減少時代の新しい生き方・働き方の創造を考える（前編）—

研究員 大友 和佳子

目次

- | | |
|-------------|------------------------|
| 1. はじめに | 3. 地域特性を活かした「教育」 |
| 2. 徳島県神山町概要 | (1) 「神山まるごと高専」と起業家精神育成 |
| | (2) 「神山塾」と地域の包摂性 |
| | 4. おわりに |

1. はじめに

人口減少時代を迎え新しい生き方や働き方が求められている。識者の論調を見れば、土提内^[1]は、高度経済成長を支えた日本型雇用制度のもとに築かれてきた年齢に制約されたライフスタイルが、人口減少時代には成立しないと述べている。そして、個々人が年齢や性別にとらわれずにライフイベントを構築できるような社会の設計が必要であると指摘している。

また、広井^[2]が2021年に日立コンサルティングと行った共同研究では、ポストコロナ後の日本社会は、「女性活躍と働き方・生き方の「分散型」社会」が重要であると報告されている。具体的な政策提言としては、「日本社会の未来の持続可能性にとって「都市・地方共存シナリオ」と呼びうる姿がもっともパフォーマンスが優れており、またそこに至るには女性の活躍やサテライト・オフィス、男女の役割分担など、都市と地方の関係性にとどまらない、働き方や人生のデザインを含む包括的な意味での「分散型」社会に向けた対応が重要になる。」という内容である。

以上の論調から言えることは、日本の持続性にとって、従来とは異なる生き方や働き方を可能にする社会全体のデザインが、極めて

重要であるということである。

こうした時代の流れを受け、筆者は、2020年から主に地方部で生まれている若年層の「移住と起業（新しい働き方の創造）」の流れに注目をし報告してきた。そこではまさに、様々な社会課題に問題意識を持つ若者たちが新しい社会を創ろうと奮闘し、個性的な生き方や働き方が誕生していた。本稿はそのシリーズの続編で、徳島県神山町の「新しい生き方、働き方」を生み出そうとする様々な取り組みにスポットをあてた。

レポートは、前編と後編で構成されており、前編では「新しい生き方、働き方を生み出す教育のあり方」、後編は「実際に生まれている新しい生き方、働き方」に焦点をあてる。

(図1) 徳島県神山町の地図



(出所) 筆者作成

2. 徳島県神山町概要

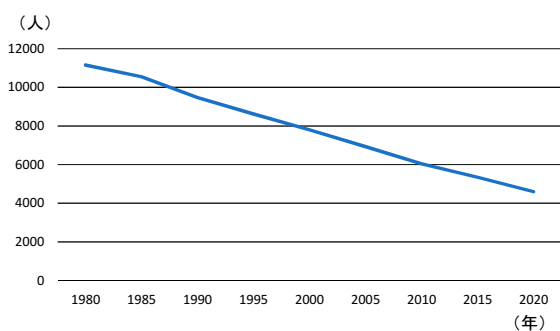
徳島県神山町は、徳島市より車で30分から40分、徳島空港から車で約1時間ほどの場所にある。神山町の人口は1955年には2万人を超えていたが、2024年5月現在は、4,764人である^[3]。神山町は、移住者が多い過疎地域として知られている。

人口動態について、(図2)(図3)に示した。(図2)に基づいて説明をすると神山町の人口減少は一定のペースで進んでおり、2015

年から2020年にかけての人口増減率は、-12.32%である。人口減少は2024年時点では自然減が主要因になっており、社会減が少ない地域として知られている^[6]。具体的には、2011年には、12人の社会増となり、以降は社会減の状態が続くが2019年が4人、2020年が27人、2022年が12人、2023年が53人の社会増となっている¹。

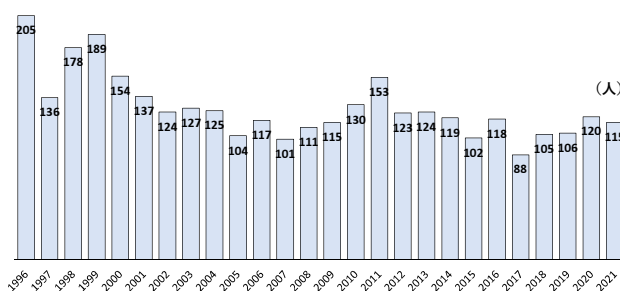
次に、神山町の産業構成について(図4)に示した。

(図2) 神山町の人口の推移



(出所) RESAS (地域経済分析システム) より筆者作成^[4]

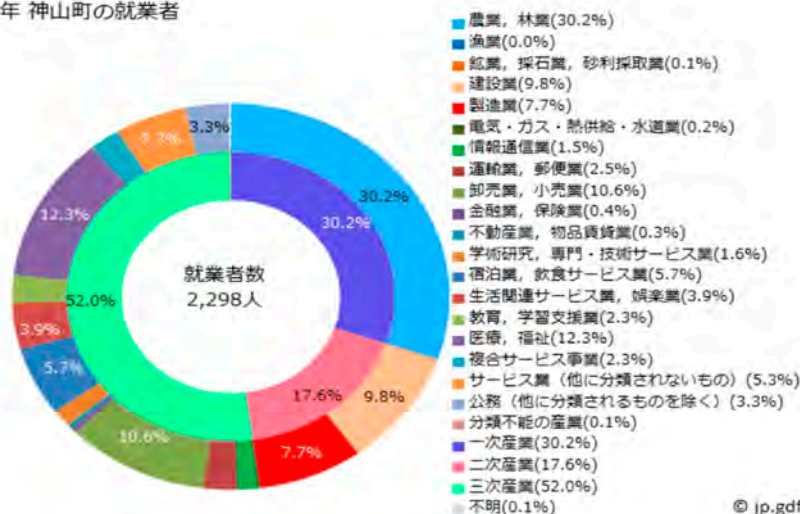
(図3) 神山町の転入者数の推移



(出所) Graph To Chart. 「グラフで見る名西郡神山町の転入者数(日本人移動者)は多い?少ない?(推移グラフと比較)」。^[5]

(図4) 神山町の産業構成

2020年 神山町の就業者



(出所) GD Freak

グラフで見る! 神山町(カミヤマチョウ 徳島県)の就業者数とその産業構成^[7]

1 神山町「人口と世帯数」(<https://www.town.kamiyama.lg.jp/office/juumin/residents/population.html>) 2024. 4. 30最終アクセス)

(図4)に基づいて説明をすると神山町の就業者数は2,298人で、その内訳は第一次産業が30.2% (全国:3.5%)、建設業と鉱工業からなる第二次産業が17.6% (全国:23.7%)、残り52.0% (全国:72.8%)が第三次産業となっている。全国の産業構成と比べると、第

一次産業の割合が高い。特に、すだちの生産量は日本一である。

次に神山町の地域づくりの歴史を(表1)に示した。神山町ので地域づくりの特徴は、地域外から移住者を呼び込む多様な施策を展開していることである。

(表1) 神山町ので地域づくりの歴史

年代	事項	実施主体	内容
1992年	アリスの里帰り	アリス里帰り推進委員会	アメリカから送られた「アリス」という人形をアメリカに里帰りさせた。
1999年	神山アーティスト・イン・レジデンス (KAIR)	神山町国際交流協会 (1992年誕生)	国内外からの芸術家に対して、宿泊・アトリエなどのサービスを有償提供することにより、芸術家の移住者が生まれるようになる。(海外2人・国内1人のアーティストを招へい/年)
2004年	NPO法人グリーンバレーの誕生 (前身は、神山町国際交流協会)		「日本の田舎をステキに変える」をミッションに神山町ので様々な移住交流促進事業を促進する中心的存在。
2000年代後半	ワーク・イン・レジデンスの開始	NPO法人グリーンバレー	神山町ので働いてほしい人材に逆指名をし、商店街の空き家を提供する。
2010年～	サテライトオフィスの誘致	NPO法人グリーンバレー	IT、映像、デザインなど働く場所を選ばない企業に古民家を提供し、企業誘致をする。
2010年	「神山塾」が始まる。	㈱リレイション (本社:徳島市)	厚生労働省の事業の一環として、求職者支援訓練を実施し、その修了生の3割が神山に移住している。
2015年	「まちを将来世代につなぐプロジェクト」(神山町ので創生戦略の策定)	神山町役場職員・移住者を含む49歳以下の地域住民	「住まいづくり」「高校プロジェクト」「フードハブ・プロジェクト」など、様々なプロジェクトが官民の協力のもとつくられる。
2016年	一般社団法人「神山つなぐ公社」の誕生	創生戦略を実践する移住者を含む地域住民	1)住まいづくり 2)ひとづくり 3)しごとづくり 4)循環のしくみづくり 5)安心な暮らしづくり 6)関係づくり 7)見える化
2023年4月	「神山まるごと高専」の誕生	学校法人神山学園	テクノロジー、デザイン、起業家精神を学ぶことに特化した単科高専の誕生。(1期生42名、給付型奨学金)

(出所) ヒアリングより筆者作成

(表1)に基づいて、簡略に歴史を説明する。地域づくりは、1992年の「アリス里帰り推進委員会」による「アリスの里帰り」から始まっている。「アリスの里帰り」とは、地域に眠る「青い目のアリス」と呼ばれる人形を祖国のアメリカに里帰りさせようとする動きである。

「青い目のアリス」は、1927年に日米親善のために日本全国に贈られた人形のことを指す。戦時中にそのほとんどが破壊され、現存するものは少なかった。しかし、神山町の小学校に「青い目のアリス」が残っていたため、それをアメリカに届けようという企画が生まれた。そして、実際に有志は人形をもってアメリカへ渡った。「面白そうだからやってみよう」という企画だったという。予想以上にアメリカで歓迎を受けた有志は、国際交流の動きをさらに発展させようと思うようになり、「神山町国際交流協会」が誕生した。こうした流れから生まれたものが、次に説明をする神山アーティスト・イン・レジデンスの取り組みとなる。こうした「世界とつながりながら地域でワクワクすることがしたい。」という想いが、神山に様々な動きを生みだしていく原点となった。

(1) 神山アーティスト・イン・レジデンス

神山町の移住者誘致の歴史は、1999年の神山アーティスト・イン・レジデンス (KAIR) に遡る。これは、国内外からアーティストを招へいし、3か月神山町に滞在した上で、作品制作をしてもらうしくみである。毎年8月に始まり、11月に展覧会を実施する。一般的なアーティスト・イン・レジデンスとの違いは、「地元住民とアーティスト」との交流を重視している

点である。一般的なアートを伴う地域活性化策では、評価の定まったアーティストを呼び、その作品を観光資源とすることが多い。だが、KAIRでは、まだ評価が定まらないアーティストも招へいの対象とし、アーティスト1人につき数人のサポート役がつく。そして、地域住民との交流を重視する。応募者の8割が欧米を中心とした海外からとなっている。

(写真1) 神山アーティスト・イン・レジデンスの様子



(出所) 神山アーティスト・イン・レジデンス事務局より提供

このしくみは、1999年に始まり2024年現在25年間続いている。この取り組みによって、「異質なものを地域に受け入れる地域の土壌」が育ったことを地域住民が指摘している²。

(2) NPO法人 グリーンバレーの誕生

そして、このような様々な移住者誘致を促進している中心的存在が、2004年にNPO法人として誕生した「NPO法人グリーンバレー」である。前身は、表1で説明した「神山町国際交流協会」である。

「NPO法人グリーンバレー」(以下、グリーンバレー)は、神山町出身で、シリコンバ

2 2024年4月に実施した神山町における現地調査では、「このように多くの移住者が神山町で居心地よく過ごせるのは、アーティスト・イン・レジデンスによって、長い間地域の中に異質な人がいることに住民が慣れていることが大きい。」という意見を多数伺った。

レーで働いていた大南信也氏が、地域をもっとワクワクする場所、楽しい場所にしようと仲間と作り上げたNPOで、神山町の様々な変化を促進している。グリーンバレーは、2007年に「創造的過疎」という言葉を提唱し、「人口減少は止めることはできない。そうであるならば、過疎化の現実を受け入れ、その質を向上していこう」と様々な施策を展開させてきた。具体的には、

- ① ワーク・イン・レジデンスの開始—地域外から若者やクリエイティブな人材を誘致し、働く場所としての空き屋を提供する。
- ② サテライト・オフィスの誘致—ICTのインフラを使いながら、多様な働き方が可能なビジネスの場としての空き屋を提供する。農林業だけに頼らないバランスのとれた仕事の創造を目指している。これによって仕事がない、雇用がないという問題の解決を目指している。

といった取り組みである。

(3) 神山町創生戦略—「まちを将来世代につなぐプロジェクト」の誕生

また、神山町に多様な地域プロジェクトを生み出しているものに、2015年に実施された「まちを将来世代につなぐプロジェクト」がある。これは、神山町の創生戦略のビジョンをワーキンググループによって作成したもので、ワーキンググループの在り方が話題となった。ワーキンググループは、移住者と地元住民の中の49歳以下の個人が参加した。

ここで誕生した様々なプロジェクトの説明は後編への記述を予定しているの、ここ

では割愛する。

以上、簡略ではあるが、神山町の地域づくりの歴史を簡単に紹介した。それでは、続いて神山町の地域特性を活かした「新しい教育」の在り方について述べていきたい。

3. 地域特性を活かした「教育」

(1) 「神山まるごと高専」と起業家精神育成

現在、神山町において全国から注目されている新しい教育は、2023年に開校した「神山まるごと高専」である。

「神山まるごと高専」が注目されている理由は、以下の4点である。

- 1) 過疎地域に、全国で約20年ぶりの高専³が新規開設したこと。
- 2) 「デザイン・エンジニアリング学科」のみの単科であり、ソフトウェアやAIなどの情報工学をベースに、デザインや起業家精神について学ぶ特殊なカリキュラムであること。育てる学生像は、「モノをつくる力で、コトを起こす人」である。
- 3) 現役40代の経営者が学校設立の代表者であり、民間企業11社から約110億円の拠出や寄付を集めたこと⁴。また、学費を実質無償化し、親の経済状況に関係なく幅広い学生に門戸を開いた。
- 4) エンジニアに女性が少ない日本の現状を変えるために、学生の男女比を重視した。

それでは、「神山まるごと高専」について説明をしたい。「神山まるごと高専」の定員は、1学年40人前後で、1期生は42人である。2024年4月現在、2期生42人の入学が決まり、志願倍率は約10倍であった。

3 「高専」とは高等専門学校³の略で、5年間の一貫教育を提供する高等教育機関である。学校教育法を根拠とし、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」ことを目的としている。機械や材料、情報、電気、建築など理系分野が中心で全国に58校（国立51・公立3・私立4）ある。

4 資金調達は、クラウドファンディングやふるさと納税、企業の拠出・寄付などで実現している。また、民間企業の拠出・寄付を利用した返済不要の奨学金スキームを作った。協賛企業としては、デロイトトーマツコンサルティング、ソニーグループなどがある。

カリキュラムは、5年間の総授業数のうち、国語や英語、数学などの一般科目は40%、プログラミングを始めとした情報工学が30%、プロダクトデザインやUI/UX、デザイン思考や課題発見などのデザイン関連が15%、課題解決やリーダーシップ、チームワークなどを学ぶ起業家精神が15%である。4年生や5年生になってくると、企業との共同研究や卒業研究、インターンシップや起業などに取り組むことが想定されている^[5]。

学生寮は、元中学校だった校舎をリノベーションして使用しており、全寮制のしくみで、給食は神山町の地産地食を進める「フードハブ・プロジェクト」⁵が提供する。水曜日には、ビジネスの一線で活躍する現役起業家が起業家講師として特別授業を行う「Wednesday night」が開講される。高専ができる前の神山町では、町内に高校はあるが、若者は中学校を卒業すると徳島市内の高校に進学し、寮生活を送ることが多かった。どの過疎自治体でも見られることであるが、10代・20代の若年層の姿が地域社会からすっぽりと消えてしまうのである。こうした現状の中で高専ができることの意味は大きい。5,000人弱の人口の中に、全学年で200人ほどの15歳～20歳の若年層が流入するのである。これは神山町にとっては画期的なことであると言える^[6]。

(2) 「神山塾」と地域の包摂性

次に「神山塾」について説明をしたい。「神山塾」は、2010年に生まれた職業訓練と地域人材の育成を兼ねたキャリア支援プログラムで、厚生労働省の「求職者支援制度」として実施されている。実施主体は、グリーンバ

ーと株式会社リレイションである。

「神山塾」のコンセプトは、「前向きに立ち止まり、生き方・働き方を見つめなおそう」であり、受講生は主に東京・神奈川・大阪などの都市部からきている。原則、地域へ滞在する必要があるが、条件を満たせば月10万円の職業訓練受講給付金が給付される。住居は、神山町住民の家に下宿をしたり、シェアハウスを借りたりする。地域住民の全面的な協力のもとに成立しているプログラムで、地域住民が熱心に受講生のチャレンジを応援する体制がある。

2024年3月までに卒業した人数は、265名で卒業率が98.4%、その後、卒業後3カ月以内に徳島県内に移住した（残った）人数が84名で移住率は31.7%となっている⁶。

卒業後は、WEEK神山（宿泊施設）を運営する、染物屋を開業する、神山に根づいた企業や組織に就職をするなど、そのまま神山町での活動を続ける者も多く、神山町にとっては地域と若年層の移住を促す重要な存在となっている。

受講生は、「自らの生き方・働き方を転換すること」を目的に参加しており、今まで生きてきた環境とは違う場所に身を置き、出会ったことのない人と出会い、自分を見つめ、自分を知る経験を重ねていく。

2024年4月に実施した受講者へのインタビューでは、「失業していたが、地域の人が「それもいいんちゃう」と温かく受け入れてくれた。」「お世話になった地域の人への恩返しとして神山町を元気にできるようなことがしたいと思っている。」「都会での働き方に疲れ、新しい生き方を探すつもりで神山塾に申し込んだ。」などの声が聞かれた⁷。

5 「フードハブ・プロジェクト」とは、2016年に神山町地方創生戦略を考えるワーキンググループから生まれたもので、神山町の農業を「地産地食」によって持続的にしていこうというプロジェクトである。

6 2024年4月に実施した㈱リレイションへのインタビューより。

7 インタビューは、2024年4月に「神山塾」を受講し、その後も神山町に関わっている3名に実施した。

こうした「地域を舞台とした教育の場」が成立している背景には、異質なものを柔軟に受け入れ面倒を見る「神山町の包摂性」が関係している。

神山町に豊かな「包摂性」がある点については、お遍路さんの通り道になっていることから生まれたお接待文化があること、神山アーティスト・イン・レジデンスの長年の経験から地域の中に異質なものを受け入れる素地が形成されていたこと等がある。こうした地域の中の「包摂性」も多様な生き方や働き方を生み出すためには重要なポイントとなる。

4. おわりに

以上、本稿では徳島県神山町における「新しい生き方、働き方を創造するための教育」について重点的に紹介をした。神山町では、「神山まるごと高専」や「神山塾」など、「地域特性を活かした教育」が提案され、若年層を惹きつけている。ここで言う「神山町の地域特性」とは、異質なものを受け入れる町民の「包摂性」や豊かな自然環境、多様な人々がバラエティ豊かな仕事を創造している環境など、これまでの地域づくりの実践によって作られてきたものである。

こうした長い地域づくりの歴史が「他の地域にはない独自の教育」を生み出していることに注目したい。地域づくりとは、一朝一夕になせるものではない。長年の積み重ねによって作られた歴史が、新しい何かを創造すること、そのことに深く敬意を表し、本レポートを終えたいと思う。

(謝辞)

インタビューにご協力頂きました神山町役場、NPO法人グリーンバレー、神山まるごと高専、株式会社リレイション等の関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

(参考文献)

- [1] 土提内昭雄 (2006) 『「人口減少」で読み解く時代 輝く社会と人生のデザイン』, ぎょうせい, P.15
- [2] 広井・福田 (2021) 「A I を活用した政策提言と分散型社会の構想」, 農林業問題研究, 57(1), P. 8-14
- [3] 神山町役場「人口と世帯数」
(HP : <https://www.town.kamiyama.lg.jp/office/juumin/residents/population.html>) 2024. 4. 30最終アクセス
- [4] RESAS (地域経済分析システム)
(HP : <https:resas.go.jp/#/13/13101>) 2024. 4. 30最終アクセス
- [5] Graph To Chart「グラフで見る名西郡神山町の転入者数(日本人移動者)は多い?少ない?(推移グラフと比較)」
(HP : <https://graphtochart.com/japan/myozai-gun-kamiyama-cho-number-of-in-migrants-japanese.png>) 2024. 4. 30最終アクセス
- [6] 服部・海迫・藤井・松行・吉田 (2021) 「相対的に社会減を抑えることで人口減少を抑えた自治体の政策、民間動向の調査報告—金沢市、弘前市、福井市、尾道市、長門市、神山町の事例研究」, 公益社団法人日本都市計画学会 都市計画報告集, No.20, P. 33
- [7] GD freak グラフで見る! 神山町(カミヤマチョウ 徳島県)の就業者数とその産業構成
- [8] 篠原匠 (2023) 『神山 地域再生の教科書』, ダイヤモンド社, P. 23-24